

学校の教育目標 **知性高く 心豊かで 自律的に行動できる 生徒の育成**

4段階評価 【4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する】

	重点目標	学校の評価項目	学校の自己評価	学校の評価	学校関係者評価	学校関係者の意見等
1	主体的な探究	① 基礎・基本的な内容の定着を図るために、家庭学習の充実と家庭との連携ができたか。 ② 個別最適化による、学習指導の工夫・改善がなされているか。楽しく分かる授業を展開しているか。 ③ 主体的に学び、探究する力の育成のために考える時間の確保ができているか。 ④ 指導力・授業力を向上させるために、校内研究の充実ができたか。	○ 考えさせる個別の課題を通して、生徒の学力向上及び基礎・基本の定着に取り組んでいる。 ○ 学習課題の提示を明確に行い、学習内容を振り返る時間を確保することを職員で共通理解し実践している。ICT活用に力を入れ、テンポのよい授業と生徒の情報活用能力の育成に取り組んでいる。 ○ 言語活動の充実を図るため、発問の工夫やペア学習・グループ学習を行い、生徒が主体的に考え発表する場を設定している。 ○ 校内研修の中で、効果的なICT活用やリモート授業について研究を行い、授業力向上に活かしていくように努めている。	3	3	○ 全職員で子供の学力向上に取り組まれている事にうれしく思い、安心している。 ○ 生徒は意欲を持って積極的に学習に取り組んでいる。 ○ ICT活用を先生方がよく取り入れ、生徒にわかりやすく授業を行っている。
2	豊かな人間性	① 学校行事、生徒会活動、委員会活動、部活動等を通して、協力して活動できる心情を育て、互いを賞賛できる態度を養うことができたか。 ② 道徳・学活の授業が完全実施されたか。また、全教育活動との関連を図り、道徳的実践力を育てることができたか。 ③ 人権意識を高め、体罰やいじめのない認め合う教育を実践できたか。	○ 学校行事を通して、生徒会を中心に全校生徒が協力し合って主体的に作り上げる姿が見られた。アンケート結果からも生徒達の自主的な活動の様子がうかがえた。 ○ 道徳・学活においては、全学年計画的に実施している。 ○ 道徳や学活を中心として、「情報モラル」や「ネットいじめ」について生徒に考える時間を設けた。 ○ 体罰やいじめに関する職員研修を長期休業中や職員会で実施することができた。いじめや学校生活の悩みについては、学校生活アンケートを毎月実施し、早期発見、早期解決に努めている。 ○ 毎学期学級担任を中心に、教育相談を実施できた。	3	3	○ 協調性のある子供達は、今自分が何をしなければならぬか、しっかりわかっているため、学校行事では素晴らしい成果を上げることができている。 ○ 学校行事等で生徒は自主的な活動が見られた。 ○ 地域においても、気持ちよいあいさつをしてくれる。 ○ 生徒は人権意識や人を思いやる態度が培われている。

	重点 目標	学校の評価項目	学校の自己評価	学校の 評価	学校関係 者評価	学校関係者評価委員の意見等
3	健康の維持・心身の鍛錬	① 体力向上プランを有効に活用し、基礎体力や運動能力を向上させる学習・部活動が展開できたか。また、学校保健委員会や保健指導で充実した取組がなされたか。 ② 安全点検の実施や交通安全教育の徹底により、安全の確保に努めることができたか。また、自分の命は自分で守るという意識を高めることができたか。 ③ 生徒が主体的・自主的に諸活動(生徒会・委員会・部活動等)に取り組むことができたか。	○ コロナ禍ということで、運動の制限や部活動が中止になることがあり、体力が落ちているように感じる。 ○ 職員による安全点検及び毎学期の大清掃後、生徒による安全点検を実施することができた。 ○ 4月に地震・津波を想定した避難訓練、9月に火災についての避難訓練を実施し、自分の身を守ることへの意識を高めることができた。 ○ 登下校の様子を見るとおおむね、自転車通生を含め安全に気を付けながら登校している。 ○ 体育大会や合唱コンクールなど限られた行事の中で、3年生を中心に生徒が主体的に取り組み大変良かった。	3	3	○ 部活動により生徒の体力は十分ついているが、少なからずコロナの影響があるかもしれない。 ○ 生活の安全面については意識していると思う。 ○ 登下校の様子を見ていると、どの生徒も交通マナーを意識して、安全面に配慮している。 ○ 体育大会や合唱コンクールなど数少ない行事において、3年生を中心に盛りあがっていた。
4	信頼される学校づくりの推進	① 全職員の共通理解に立った、一貫性のある生徒指導体制を確立することができたか。 ② コミュニティ・スクールを中心として、学校と家庭、地域が連携、融合を図り、一貫した生徒の育成に努めることができたか。 ③ SDGsの学習を通して、将来、恒富西地区(自分の住んでいる地域)や延岡に誇りを持ち、貢献しようとする心を育成できたか。 ④ 小中連携、小中一貫教育を推進し、地域に信頼される学校づくりができたか。	○ 生徒がよりよい学校生活を送れるように校則の見直しを図っている。ネット等のトラブルに対しては、早期発見・早期解決を行うことができた。 ○ コロナ禍の中ではあるが、地域活動や給食試食会における熟議、民生児童委員との意見交換会等、地域の方との交流の場を設けることができた。 ○ 総合的な学習の時間を中心に、各学年ともSDGsの学習に取り組むことができた。また、青少年育成協議会の意見発表会では、小・中・高の取り組み内容をお互いに聞くことができ、良かった。 ○ 小中合同研修会の中で、「知・徳・体」の3つの部会ごとに小中連携して取り組む項目について協議を行うことができた。	3	3	○ コロナ禍の中でも、地域活動などを行い、生徒・保護者・地域の結びつきができてつづいた。 ○ コロナのため、行事等は中止も多いが、生徒たちは地域のことをよくわかり誇りに思っていると思う。

【 総 評 】

- コロナ禍の厳しい状況の中であるが、学校・家庭・地域の連携によって、教育活動が維持されている。非常事態の中にあっても、最大限の学校経営がなされている。
- コロナ禍ではあるが、コミュニティ・スクールの取組が実践され、地域と生徒の協議の場が設けられ素晴らしいことである。学校経営の根幹であるコミュニティ・スクールの具体的な実践をさらに加速させて欲しいと考える。
- アンケート結果を見る限り、学校と保護者のコミュニケーション不足が露呈していると感じる。これは、コロナ禍ということもあり、保護者がPTA活動に参画できていないからである。全保護者との意見交換の場、リモートなどで定期的な交流会を企画していくなどの工夫が今後必要だと思う。参加していない保護者には、後日議事録を配付したり、参観日の代わりに授業の様子をリモートで配信する等の工夫が必要だと感じた。